

紫式部のありえない日々

を読んで

- 「神作家・紫式部のありえない日々」という漫画を読んでいます。
- 漫画に書かれている平安時代のきぞくのくらしと、今のくらしの違いについてしらべました。

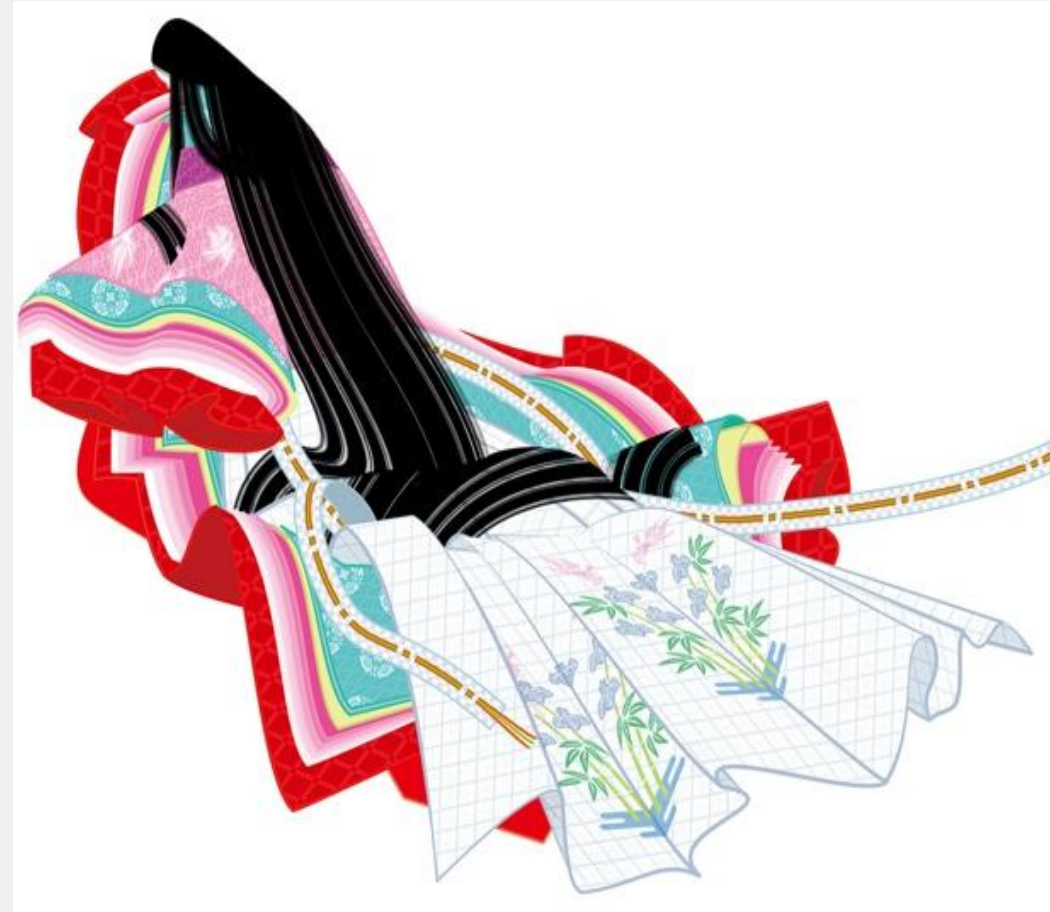


平安時代のきどくのくらしのありえないところ①

- 髪型

- 女性

平安時代の女性は大垂髪（おすべらかし＝髪を長くたらしめたロングヘア）が多くて、百人一首にえがかれている女性のように、黒くてつややかなロングヘアが美人のじょうけんだといわれていました。



平安時代のきどくのくらしのありえないとこ②

- 髪型(男性)
- 平安貴族は、烏帽子(えぼし)をいつもかぶっていました。えぼしは冠(かんむり)が変化したと考えられ、身分(みぶん)がたかいひくいにかかわらずおとなの男性が着用しました
- 烏帽子にもいろんな種類がありました。



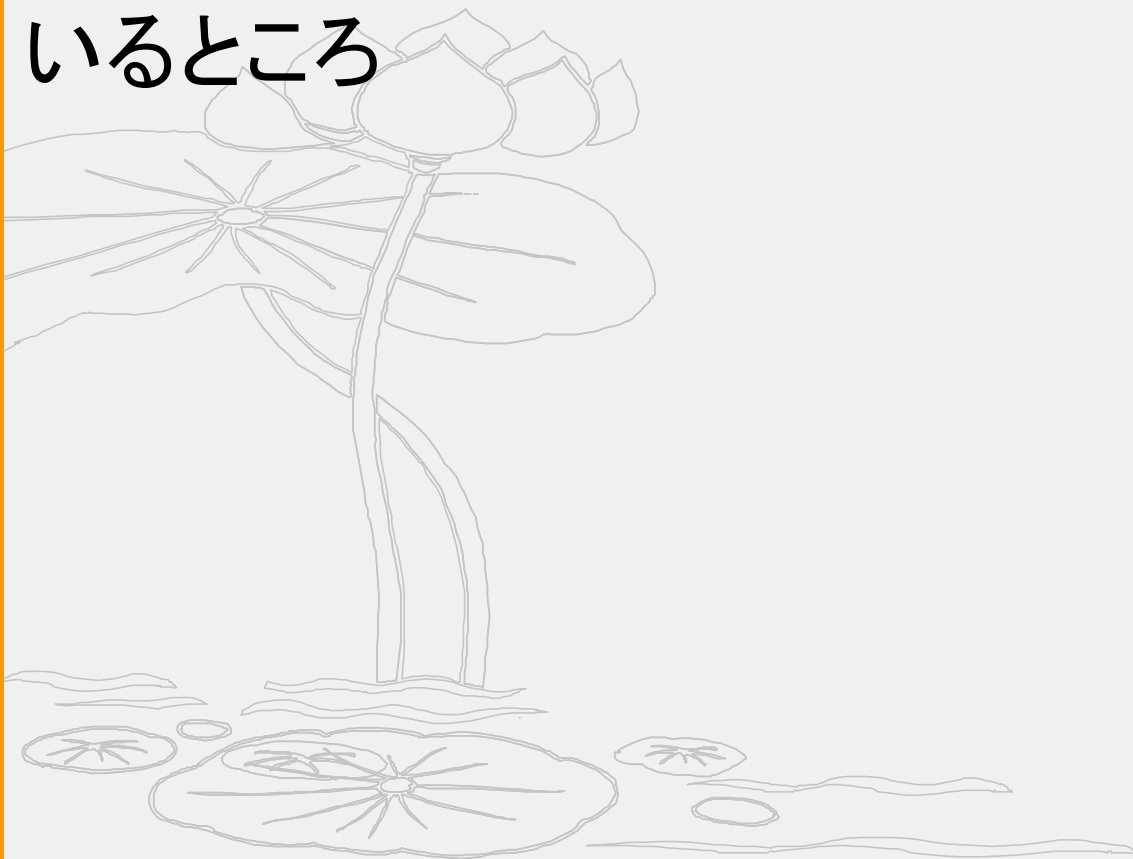
- 平安時代のきぞくは寝るときにもぼうしをかぶっていました。とくに、男性きぞくは「烏帽子(えぼし)」と呼ばれる黒いぬののぼうしをかぶることが一般的でした。烏帽子は、公家(くげ)や武士(ぶし)が家の中でも外でも着用していたもので、寝るときにもこれをかぶっていたとされています。また、女性も「夜具(よぐ)」と呼ばれる頭(あたま)をおおうぬのを着用していました。



平安時代のきぞくのくらしのありえないところ③

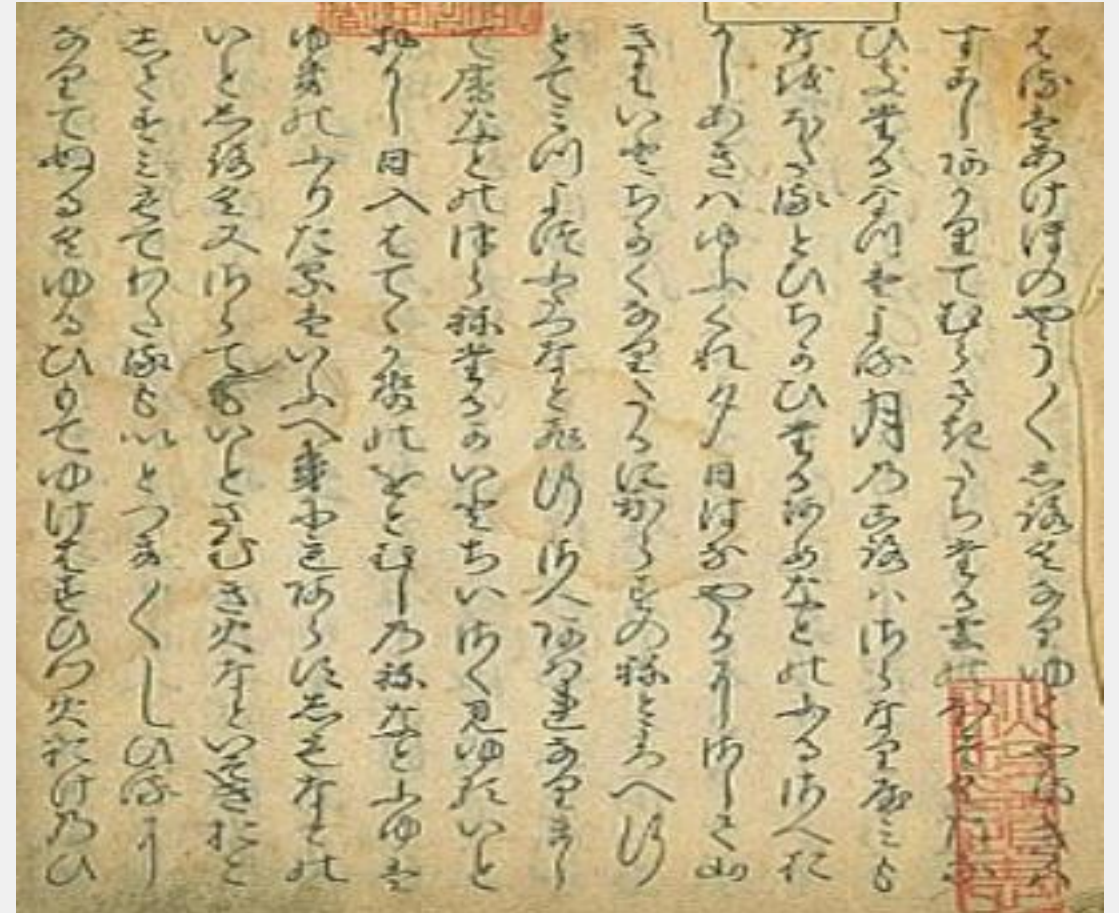
● 機械(きかい)がない
コピー機がないから写本しているところ

- コピー機がないから本をつくるのはたいへん。
- これを紫式部は54巻もつくった
- 写本だからときどきまちがって写されたり、とちゅうから違う物語りになってしまったものもあった。
- 平安時代の写本は残っていないけど、数十～数百の写本が作られたらしい。



平安時代のきどくのくらしのありえないところ④

- お茶の道具やひらがなが今にも伝わっている、今も使われているところ。
 - ひらがなは平安時代につくられた。
 - みぎの写真は清少納言の枕草子の写本。
- ところどころ今のひらがなとにている。



まとめ

- 平安時代のことがよくわかった。
- いろいろな事がインターネットでけんさくできた。
- 江戸時代とかもっと昔のことをいろいろしらべて、くらべてみたいと思いました。

